

竹島の日本地図についての 韓国側報道に対する反論 (2)

—1905年編入後から1945年までの
日本地図について—



船杉 力修
(島根大学准教授)

- 1 はじめに
- 2 1936年陸地測量部「地図区域一覧図」について (以上、前号)
- 3 1931年『日本歴史地図』について (以下、本号)
- 4 おわりに

3 1931年『日本歴史地図』について

次の記事も電子版の記事のため、今後削除される可能性があるので、2013年3月1日付の記事を引用することとしたい¹。

[単独]「独島は朝鮮領土」表記…日本歴史地図発見

2013-03-01 08:49

http://image.ytn.co.kr/general/jpg/2013/0301/201303010849446178_h.jpg

[アンカーコメント]

「独島を朝鮮領土」と記録した、過去に日本政府の検定を通過した歴史地図を YTN が単独取材しました。

この地図には、「高句麗は朝鮮の歴史」とも表記して、最近日本国内で起きている韓国の高句麗の歴史を否定する動きにくぎを刺しました。東京からパク・ Cholwon 特派員です。

[レポート]

露日戦争当時、独島付近で広がったロシアのバルティック艦隊と日本海軍との間の最後の「海戦図」が掲載された 1931 年発行の日本の中・

¹ 2013年3月1日付・韓国 YTN ニュース「[単独]「独島は朝鮮領土」表記…日本歴史地図発見」http://www.ytn.co.kr/_ln/0104_201303010850302563

高等学校歴史地図帳です。

この地図は当時覇権を追求した日本軍部の指示の下、後世の教育のために歴史教科書とともに並行して使用する目的で編纂されました。

この地図帳が持つ何よりも重要な意味は、当時中高生の教育用として、日本の文部科学省の検定を受けたという認証印がこのように鮮やかに写っているということです。

さらに目を引くのは、地名などを順に配列した索引欄に独島を示す「竹島」の下に、「朝鮮」と記録した事実です。

地図を作った日本自ら自国の領土ではなかったことを認めています。

1905年2月22日、独島を一方的に自国の土地に編入した島根県の主張がつつまがわなないことを天下にさらしたのです。

またこの地図は、高句麗は朝鮮の歴史と表記して、最近日本国内で韓国の高句麗の歴史を否定するでたらめな動きにくぎを刺しました。

[インタビュー:カク・ジンオ (郭眞吾)、東北アジア歴史財団研究委員]「(政府) 検定の通過した教科書に独島を朝鮮の領土と書いたというのはとても意味があり、高句麗までも朝鮮領土と書いたということは重要な関連資料と見ることができます。」

在日独島研究者であるパク・ビョンソプ (朴炳涉) さんが所蔵していたこの地図の存在について日本政府も知っていて、日本としては痛恨の資料という指摘です。

後世の教育のために編纂した自国の中・高等学校と師範大学用の歴史地図帳に独島と高句麗を自ら「朝鮮の領土」と記録した事実を今、日本の政治家たちはどのように説明することができるか注目されます。東京から YTN パク・チョルウォンです。

http://www.ytn.co.kr/_ln/0104_201303010850302563

該当の資料の初版は、大正 11 (1922) 年 2 月発行の『日本歴史地図』で、奥付によれば、編纂者は芝葛盛^{しばかずもり} (1880 ~ 1955 年)、発行者は明治書院となっている。編纂者の芝葛盛は、明治期から昭和期の歴史学者で、東京帝国大学史料編纂掛を経て、宮内省図書寮編修課長、宮内省御用掛となった。天皇皇族実録の編修など、皇室史の研究にあたり、帝室制度史編修事業

にも携わった人物であった。昭和 6 (1931) 年発行の増補再版の表紙には、「図書寮編修官」という肩書きが記されている。

大正 11 年 10 月発行の第 3 版の表紙には、「文部省検定済」の記載がないように、文部省検定教科書ということが一切書かれていない。冒頭の「緒言」には、「一、本地図は、中等程度の学校に於ける日本歴史の参考用たる共に、兼て一般の読史研究用の用に供せんことを目的として、編纂を試みたるものなり。これ本地図が、大体に於いて、中等教育の課程を標準として立案せられ、しかも間々詳細に渉るものある所以なり」とあり、この本は当初教科書ではなく、中等教育課程での副教材、すなわち資料集として作成されたことが分かる。

報道にある昭和 6 (1931) 年 8 月発行の増補再版の奥付をみると、初版は大正 11 年 2 月とし、昭和 5 年 9 月増補発行としている。書名も「新編」が新たにつき、『新編日本歴史地図』となっている。表紙には、赤字で、「文部省検定済 昭和六年八月二十一日師範学校・中学校・高等女学校歴史科目用 昭和八年八月二十六日 実業学校歴史科目用」と記されている。なお、この本は昭和 6 年 8 月 11 日発行となっているので、後者の「昭和八年」という記載は印刷ミスであると考えられる。つまり、昭和 6 年の時点で、師範学校 (現在の大学の教育学部)・中学校・高等女学校・実業学校 (現在の高等学校) の歴史科の教科書として使用されていたことが確認できる。

本文 32 頁の (2) 「日本海海戦図」と題する 600 万分の 1 の地図には、隠岐諸島の北西に、「竹島 (リアンコルド岩)」と記されている。さらに、巻末の「日本歴史地図索引」の 13 頁には、「竹島 (朝鮮) 三二ノ二」と記し、竹島は 32 頁の (2) の地図 (= 「日本海海戦図」) を参照するようにしている【図 8】。大正 11 年及び昭和 6 年の時点は、日韓併合後であることから、この「朝鮮」という記載は、大日本帝国の朝鮮地方、つまり、朝鮮総督府の管轄下ということの意味すると考えられる。

さらに巻末の「日本歴史地図索引」の 18 頁 (昭和 6 年版では 20 頁) には、「見島 (石見) 三二ノ二」と記し、竹島と同じように、見島は 32 頁の (2) の地図 (= 「日本海海戦図」) を参照するようにしている【図 9】。しかしながら、見島は、この「日本海海戦図」に山口県油谷湾の沖に記されて

